

vol.53-10 (通算 607号)

2024年1月号

やどかり

2024年1月15日発行
(毎月1回15日発行)1987年12月19日第三種郵便物認可
発行人 公益社団法人やどかりの里
代表者 増田 一世

〒337-0043 さいたま市見沼区中川562

TEL 048-686-0494

FAX 048-747-7030

URL <https://www.yadokarinოსato.org/>

定価 50円 (含会費)

辰年に思う 障害者権利条約に恥じない日本へ

増田 一世

(やどかりの里 理事長)

辰年は、運気が上昇して夢がかないやすい年だそうです。辰(龍/竜)は空想の動物ですが、植物の成長に欠かせない水をつかさどる神であり、荒ぶる恐ろしい神でもあります。さて、さいたま市から川口市に広がる見沼田んぼには龍神伝説があります。

1727(享保12)年、徳川吉宗の意を受け、急激に人口増加した江戸の食糧難解消のために井沢弥惣兵衛が見沼の農地開拓を始めました。しかし、村人たちは龍の祟りを恐れました。干拓して多くの米がとれば江戸の人間は助かるが、沼に棲む生き物たちは行き場を失います。井沢は農地開拓を急ぎ、龍神の怒りにふれ病を得たが、自らのいのちを賭け、利根川の水を引いて用水路を作り、沼の生き物たちが棲めるように自然を壊さないように工事を進めました。そして、大きな沼が田んぼに変わり、龍神は沼の水を干すと天に上り、見沼の空を大き

く舞ったという伝説です。自然保護か開発かではなく、第三の道を井沢は考え、その真摯な姿勢を龍神は理解し、人間と自然の共存の道が見出されたということでしょうか。

かつて人間は自然と共存し暮らしていましたが、便利な生活と引き換えに「共存」を忘れてきました。犠牲になったものの大きさは計り知れません。犠牲にしていることさえ意識しにくくなっています。見沼の空を飛翔し、私たちを見つめ続ける龍神は今何を思っているのでしょうか。

私たちの夢は、強者の論理や競争優先主義から脱却し、第三の道を見出すこと……そして、声なき声を聴く為政者をこの国のリーダーとして選ぶこと。それは障害者権利条約に恥じない日本の実現です。そして世界中の戦争や紛争の平和的解決、そんな夢を掲げてみたいと思っています。



写真はNPO法人エコ・エコ(生物多様性が保たれる環境が広がることを目的にした団体)が緑のトラスト保全第1号地周辺の向かいにある遊休地(マルコ)で制作した「龍神マルコ」